

平成28年8月29日

No. 16-197

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

## えひめ国体をもたらす経済波及効果と地域活性化への活用 ～えひめ国体で愛顔のえひめへ～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび下記のとおり、えひめ国体開催による経済波及効果や、国体の成功に向けた課題などについて取りまとめましたので、お知らせいたします。

なお、詳細は2016年9月1日発行の「IRC Monthly」2016年9月号に掲載いたします。

### 記

#### 【調査概要】

- ・ 2017年、愛媛県では64年ぶり、また単独では初めてとなる第72回国民体育大会（愛顔つなぐえひめ国体）と、第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会）が開催される。
- ・ 国体は、施設整備等による公共投資増加のほか、交流人口増加やスポーツ関連消費の活発化などによる消費拡大といった効果を開催地にもたらすとともに、地域住民の意識や行動を変化させ、地域に一体感を醸成させることから、地域活性化の起爆剤となり得る。
- ・ えひめ国体・えひめ大会開催による経済波及効果を推計したところ約607億円となった。身の丈にあった国体を目指すえひめ国体では、経済波及効果に大きく影響する施設整備を既存施設の改修中心に行ったことから、2015年の和歌山国体に比べ低いものの、地域に与える効果は大きい。
- ・ 大会期間中は、2万人を超える選手・関係者をはじめ、延べ約70万人の参加者が見込まれている。大会の成功には、本番に向け、会場までのスムーズな移動や参加者の宿泊施設の確保、運営スタッフやボランティアの確保といった課題の解決が求められる。
- ・ 国体による本当の意味での地域活性化は、ポスト国体にレガシーをどう生かしていくかにかかっている。整備された施設のほか、大会の運営ノウハウや各種競技団体とのリレーションといった財産を生かすためにも、競技力維持、スポーツコミッション機能の整備による大会や合宿の誘致とリピーターの確保が重要である。
- ・ えひめ国体では、県民全員が国体に参加できる方法が、いくつも用意されている。愛媛を訪れる方々に愛媛ファンになっていただけるよう、半世紀に1度のこの機会を愛媛県民全員で盛り上げよう。

以上

## はじめに

2017年、愛媛県では64年ぶり、また単独では初めてとなる「第72回国民体育大会（以下、えひめ国体）」と、「第17回全国障害者スポーツ大会（以下、えひめ大会）」が開催される。

国民体育大会（以下、国体）は、地域におけるスポーツ振興や競技力向上、地域づくり・人づくりの進展、交流人口増加など多方面にわたり大きな効果をもたらす。特に、施設整備等による公共投資増加や、交流人口増加による消費拡大など、県内経済への影響も大きいと考えられる。

そこで今回は、えひめ国体開催による経済波及効果や、国体の成功に向けた課題などについて取りまとめる。

## 1. 国体と全国障害者スポーツ大会（以下、障スポ）

### （1）国体・障スポとは

国体	<ul style="list-style-type: none"> <li>国体は、都道府県持ち回りで毎年開催される国内最大のスポーツ大会</li> <li>第1回国体が開催されたのは1946年</li> </ul>
障スポ	<ul style="list-style-type: none"> <li>国体終了後に同じ開催地で行われる国内最大の障がい者スポーツの祭典</li> <li>1965年から開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と、92年から開催されていた「全国知的障害者スポーツ大会」が2001年から統合</li> </ul>

### （2）国体・障スポ開催により期待される効果

国体・障スポを開催することにより、地域へのさまざまな効果が期待できる（図表-1）。

図表 - 1 国体開催により期待・懸念される効果

	開催前	開催期間中	開催後
プラス効果	交流人口の増加 ボランティア意識の高まり スポーツ施設の整備 リハーサル大会の開催 事前キャンプ・合宿の開催 競技力向上	交流人口の増加 ボランティア活動の活性化 スポーツに対する関心の高まり スポーツ関連消費の活発化	交流人口の増加 ボランティア活動の活発化 スポーツに対する関心の高まり スポーツ関連消費の活発化 大会・合宿の開催 地域の認知度向上
マイナス効果		一般観光客の減少	公共投資の反動減 施設維持コストの発生

## 2. えひめ国体とえひめ大会について

### （1）えひめ国体・えひめ大会概要

正式名称	第72回国民体育大会	
愛称	「愛顔つなぐえひめ国体」	
開催時期	2017年9月30日(土)～10月10日(火)	
競技	正式競技	37競技
	特別競技	1競技
	公開競技	4競技
	デモンストレーションスポーツ	28競技

正式名称	第17回全国障害者スポーツ大会	
愛称	「愛顔つなぐえひめ大会」	
開催時期	2017年10月28日(土)～10月30日(月)	
競技	個人競技	6競技
	団体競技	7競技
	オープン競技	3競技

（2016年7月末現在）

### （2）身の丈にあった国体

えひめ国体では、「身の丈にあった国体」を理念の1つとし、既存施設を最大限活用した開催することとしている。えひめ国体の正式・特別競技の会場は合わせて75施設あり、そのうち新設は、山岳のリード種目用の「石鎚クライミングパークSAIJO」、ホッケー用の「松前町町民グラウンドホッケー場」など6施設。改修は41施設で、メイン会場となる県総合運動公園は、陸上競技場やテニスコートなどの改修が行われた。いずれの施設も、国体後の有効利用を前提としている。

図表- 2 えひめ国体・えひめ大会の経済波及効果

経済波及効果			参加者数 (延べ)
	直接効果	間接効果	
607 億 18 百万円	406 億 75 百万円	200 億 43 百万円	約 70 万人

算出方法...参加者（選手・関係者、ボランティア、観覧者、報道関係者等）の消費支出額と国体開催に伴う施設整備費および運営費等を根拠とし、「平成 23 年経済波及効果測定システム」を用いて経済波及効果を推計した。

直接効果...参加者の消費支出額（宿泊費・飲食費等）+ 施設整備費・運営費等による効果。（県外からの財やサービスの調達が見込まれる分は除く）

間接効果...直接効果によって県内の各産業にもたらされる生産誘発額 + 利用者による消費の増加や生産誘発によって生じる雇用者所得の増加分が、新たな消費に向けられることによって県内産業にもたらされる生産誘発額。

### （3）国体・障スポ大会開催による経済波及効果

えひめ国体・えひめ大会開催にかかる施設整備費および運営費、参加者の消費支出額等から経済波及効果を推計したところ、愛媛県への経済波及効果は約 607 億円となった（図表 - 2）。2015 年の和歌山国体の経済波及効果（約 810 億円）に比べ低くなったが、地域に与える効果は大きい。

## 3. えひめ国体・えひめ大会の成功に向けて

### （1）輸送手段の確保と渋滞回避

最も輸送人員が多くなる開会式には、県総合運動公園に 3 万人近い人が来場すると見込まれる。県内・中四国の事業者からバスの提供を受け、また交通渋滞対策として、マイカーでの来場の原則禁止や、主要駅や郊外の駐車拠点からのシャトルバス運行など、総合的な対策が講じられる予定である。

### （2）宿泊施設の確保

県では、えひめ国体開催期間中の選手・スタッフの宿泊人数を延べ 17 万人弱と想定、観客などの宿泊も発生することから、宿泊施設の確保は大きな課題である。

施設が不足する地域では、「広域配宿」や「民泊」で対応することになっており、四国中央市、西予市、鬼北町、宇和島市の 4 市町が民泊の採用を表明している。

### （3）スタッフ、ボランティアの確保

県によると、えひめ国体とえひめ大会では、「運営スタッフ」の必要人数は約 16,700 人、「運営ボランティア」は約 12,600 人募集している。

運営スタッフは、中央や近県の競技団体からの協力を得るほか、県内の学校の該当競技の部員などを中心に賄う予定。えひめ大会で必要な、「選手団サポートボランティア」は、県内の医療・福祉系の専門学校や大学の協力により、確保に目処が立っているそうだ。

## 4. 県民が、みんなで楽しんで盛り上げる大会に

県民全員が国体に参加できる方法について、愛媛県が展開している「つなげよう愛顔運動」の基本目標「おせたい」に沿って紹介する。

「お」: 応援しようえひめ国体・えひめ大会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技会場などでの応援</li> <li>・開会式や各種関連イベントへの参加</li> <li>・ボランティア参加</li> </ul>
「せ」: 精一杯のおもてなし
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りののぼりなどで選手団を歓迎</li> <li>・民泊への協力(該各市町のみ)</li> <li>・笑顔であいさつや声かけ</li> </ul>
「つ」: 伝えよう愛媛の魅力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩な地域資源の競技会場などでの紹介</li> <li>・特産品を使った記念品の製作・配布</li> <li>・郷土料理やご当地グルメをふるまう</li> </ul>

「た」:楽しくスポーツ、健康づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デモンストレーションスポーツへの参加</li> <li>・開催競技の体験教室などへの参加</li> <li>・地域のスポーツチームなどの応援</li> </ul>
「い」:一緒にしようわがまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の清掃活動などへの参加</li> <li>・花いっぱい運動、交通安全運動などへの参加</li> <li>・公共交通機関の利用など環境への取り組み</li> </ul>

## 5. ポスト国体に向けて

### (1) 方針決定と当事者意識の必要性

図表-1で示した開催後に目指すべき効果を楽しむには、ポスト国体にスポーツをどのように地域活性化に生かしていくのかという方針が必要である。また、県民の当事者意識の醸成を図り、「観る」「する」「支える」スポーツに、県民が積極的に参加する土壌をつくることが求められる。

### (2) 国体レガシーをどう生かすか

国体開催により、整備された施設などのハード面のほか、大会の運営ノウハウや各種競技団体とのリレーションといったソフト面の財産が残ることになる。国体や障スポを一過性のイベントとするのではなく、開催後もそうした財産を生かし、大会や合宿を誘致して施設を有効活用していくことが経済波及効果を極大化するものと考えられる。

### (3) 継続的な競技力維持・向上への環境整備

過去の国体の成績を見ると、開催地のほとんどが天皇杯を獲得しているが、開催年以降を見ると、成績を下げる開催地が多い(図表-3)。

せっかく強化してきた競技力が、国体のためだけにならぬよう、開催後も優秀な選手や指導者が県内に定着し、安心して競技や指導を続けられる環境整備や雇用先の充実が求められる。

### (4) スポーツコミッション機能の整備とリピーターの確保

大会や合宿の誘致を推進していくうえでは、スポーツコンベンションや競技・生涯スポーツを一元的に推

図表-3 開催地の開催年とその前後の順位

開催年/ 開催地	前年	開催年	翌年	直近 (15年)
07 秋田	10位	1位	23位	38位
08 大分	11位	1位	14位	25位
09 新潟	18位	1位	15位	39位
10 千葉	6位	1位	7位	7位
11 山口	16位	1位	15位	28位
12 岐阜	4位	1位	5位	15位
13 東京	2位	1位	2位	2位
14 長崎	10位	1位	17位	17位
15 和歌山	15位	1位		1位
16 岩手	16位			16位

進し、戦略の立案や実行を担う「スポーツコミッション」の機能が必要となる。また、合宿のリピーターづくりのため、施設環境や宿泊施設などに対する要望への対応や、戦略的な誘致活動などが重要となる。

### (5) 愛媛を売り込み、関係者の観光客化を

国体は、半世紀に1度、県の魅力を全国に発信できるチャンスである。県産品や観光面をPRして国体関係者の観光客化を図り、延泊や再訪を促す必要がある。

ただし、国体関係者の来県目的は観光ではないため、愛媛の魅力に触れてもらえる機会は限られる。そこで宿泊施設において、愛媛の特産品や郷土料理に触れたり、文化体験や交流したりできる機会を設けることが重要である。

### おわりに

国体が地域活性化につながるか否かは、国体後にそのレガシーをどう生かしていくかにかかっている。このスポーツの祭典を一過性のイベントとすることなく、地域の力につなげていくことが、国体の開催地に問われたテーマといえるだろう。

国体に出場する選手には、それぞれの目標を達成できるよう、その力を存分に発揮していただきたい。そして出場せずとも、国体に関わるチャンスは、誰にでもいくらでも用意されている。愛媛県が好成績を収めることはもちろん、まずは、愛媛を訪れる方々に愛媛ファンになっていただけるよう、半世紀に1度のこの機会を、愛媛県民全員で盛り上げたいものである。

(宮内 雅史)